

画像と地図情報を連携し 避難・被害情報の共有をより効率的に

多賀城市

01 迅速な災害情報収集

01-1. 避難・被害情報の効率的な 集約・共有

迅速で効果的な災害対応を実現するため、災害時に職員等が収集する情報を効率的に集約し、災害対策本部や他部門等に分かりやすく迅速に共有するソリューションを募集します。

03 効率的な避難所運営

03-1. 一時避難場所（津波避難ビル）への避難者受け入れ

施設管理者不在時でも一時避難場所（津波避難ビル）を迅速に解錠し、避難者を受け入れることに役立つソリューションを募集します。

04 次なる災害への備え

04-2. 震災アーカイブスを活用した 震災伝承の推進

多賀城市の震災アーカイブスを活用し、防災教育・市民の防災意識向上を狙った震災伝承の推進に役立つアイデア・ソリューションを募集します。

採択概要 – 避難・被害情報の効率的な集約・共有 –

1. 期待すること

- 採択事業者の導入実績
- 将来的な拡張性の高さ

2. 実証実験を行う上での懸念や工夫

- 目指す姿を採択事業者と共有する
- 採択事業者と対面での積極的なコミュニケーション

現状の課題

音声と紙で情報共有。現地の正確な位置や状況共有が困難。

現地職員

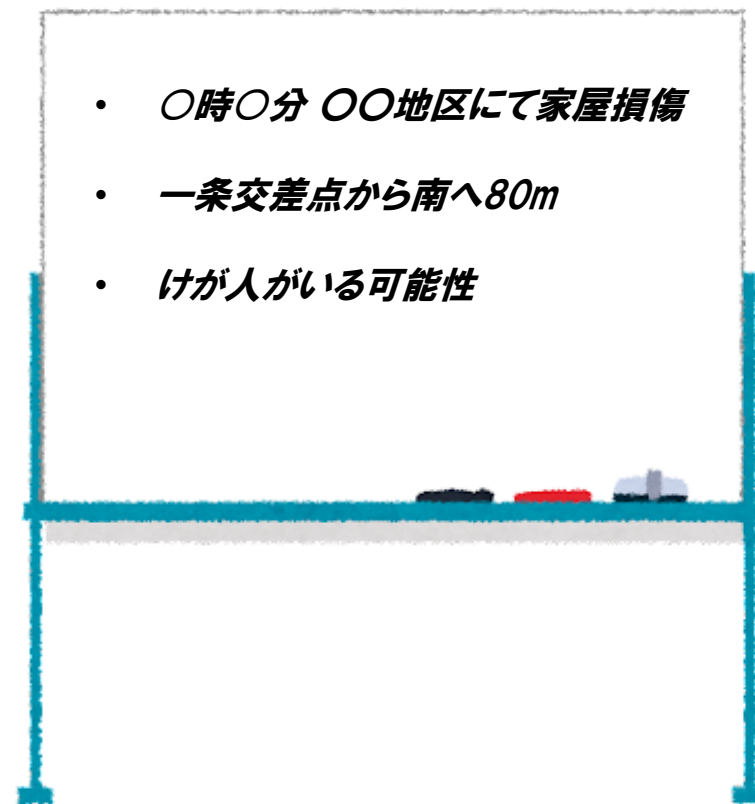


本部職員



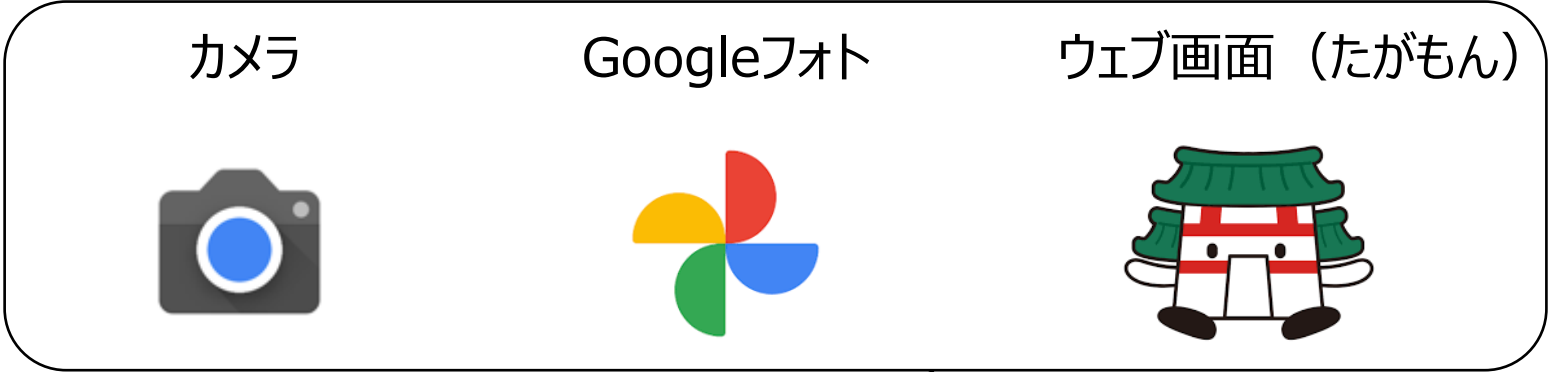
音声

- ・ 〇時〇分 〇〇地区にて家屋損傷
- ・ 一条交差点から南へ80m
- ・ けが人がいる可能性



本システムによる解決案

現地職員

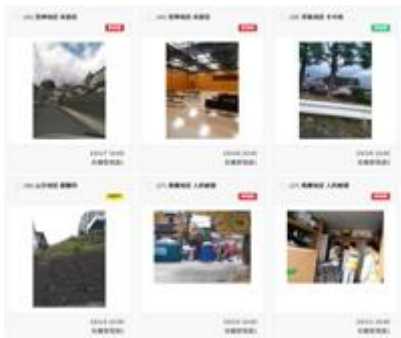


IP無線機から写真、動画、
位置情報等を送信

本部職員



パソコンで現地
状況を集約・確認



実証実験の概要

日時	令和5年2月13日（月） 13:15-16:30
場所	多賀城市内
方法	現地班： IP無線機から現地状況を送信 本部班： パソコンから、現地状況を確認
状況	三陸沖を震源とする大規模地震が発生し、 大津波警報が発表された。現地交通誘導、 備蓄倉庫確認、崩落応急措置を実施。

現地班

IP無線機から交通誘導状況（画像、動画、位置情報等）を送信



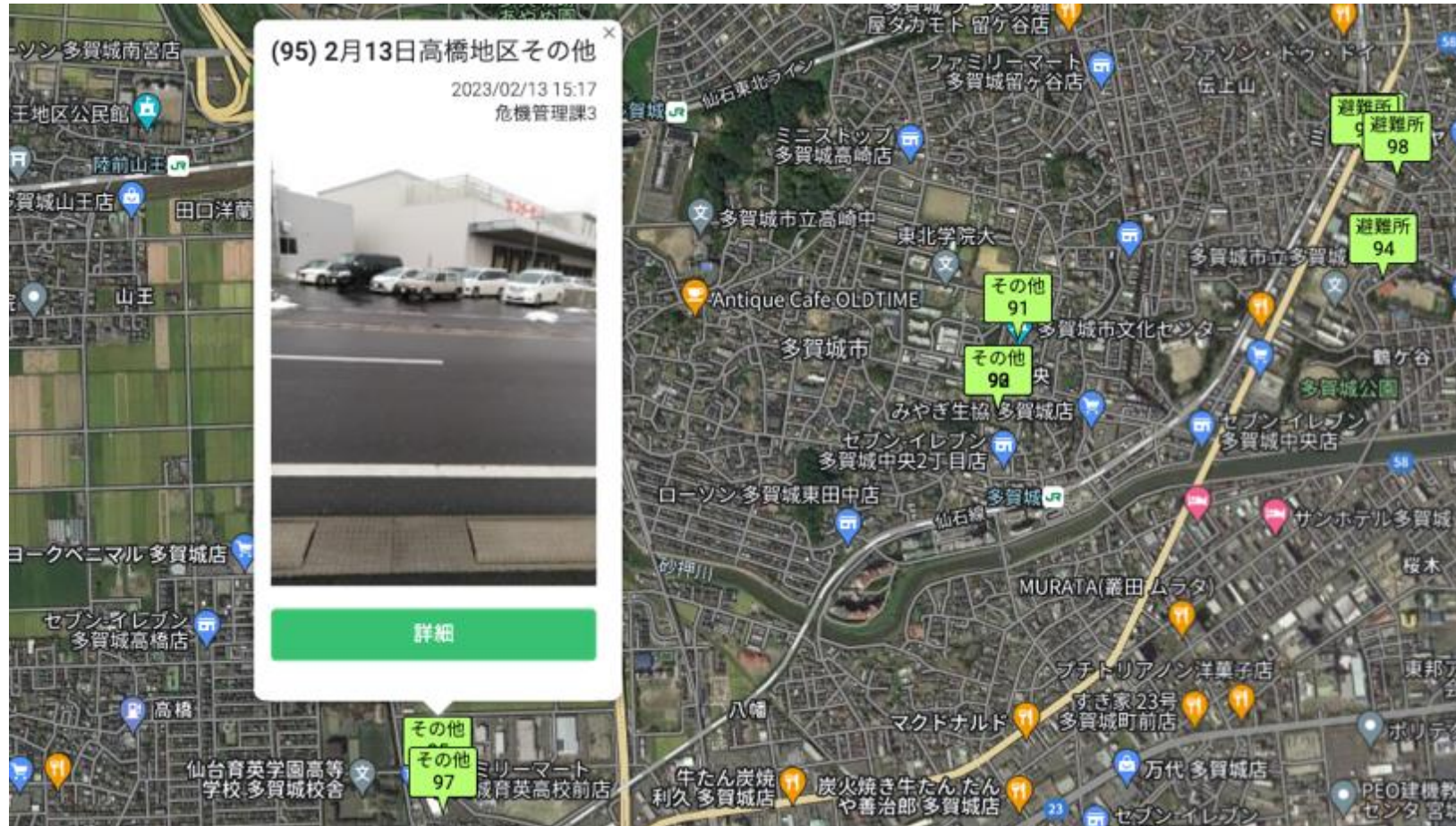
本部班

パソコンで現地からの状況を確認



実験結果

12枚の写真、6枚の動画を共有しました。



実証実験結果を踏まえて

- 実際に利用いただいたことで、使いづらい点や課題が明らかになった。
- 今回の実証実験から得られた知見を踏まえ、さらに改善していきたい。

実証実験を行ってみての所感

1. ビジョンを明確に

- 市が抱えている防災課題の分析や課題の洗い出しが重要

2. 企業の提案 ≠ 自治体のニーズ

- 自治体側が求めている内容を正確に分かりやすく伝える
- 実証実験は、自治体のニーズに合わせて柔軟にカスタマイズできるものが望ましい

3. 積極的なコミュニケーション

- 市が何をしたいのかを明確に
- 事務局のサポートに感謝